

第17回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、5月16日(木)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、経済学部同窓会である社団法人キタン会と共催で、第17回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。同センターは、領域横断型の研究を開拓し、その成果を広く社会に還元することを任務としており、同セミナーは、その一環と

して、地域に開かれた研究活動を推進することを目的として開催しています。今回は、櫻井博志旭酒造株式会社代表取締役社長を講師として迎えました。

佐藤宣之同センター教授の司会のもと、初めに木村同研究科長が開会あいさつを行い、続いて櫻井社長が「ピンチはチャンスーだっさいの挑戦ー」と題して講演を行いました。

日本酒の国内消費は長期低落傾向を辿り、海外消費も増加中とはいえ微々たる割合に留まっています。こうした状況を踏まえ、政府も、昨年春、「ENJOY JAPANESE KOKUSHU」プロジェクトを立ち上げ、國酒、即ち日本酒と焼酎の国内外における認知度向上と輸出環境整備に本格的に乗り出しました。櫻井社長はこうした政府の動きに先駆けて国内外での展開に戦略的に取り組んでおり、講演は「地元市場で競争力がなかったゆえに東京進出を試み、むしろピンチがチャンスを生んで今日の姿に成長した」、「海外輸出を考えた場合、日本酒はその複雑な製造工程ゆえに、コスト競争ではワイン等の海外酒類に勝てない」等々、示唆に富む内容でした。

地域の企業が積極果断に国内外で活躍する姿は、名古屋の産学官関係者にとっても励みとなるとともに、種々学べき点があったようでした。



講演する櫻井社長